

令和8年3月27日更新

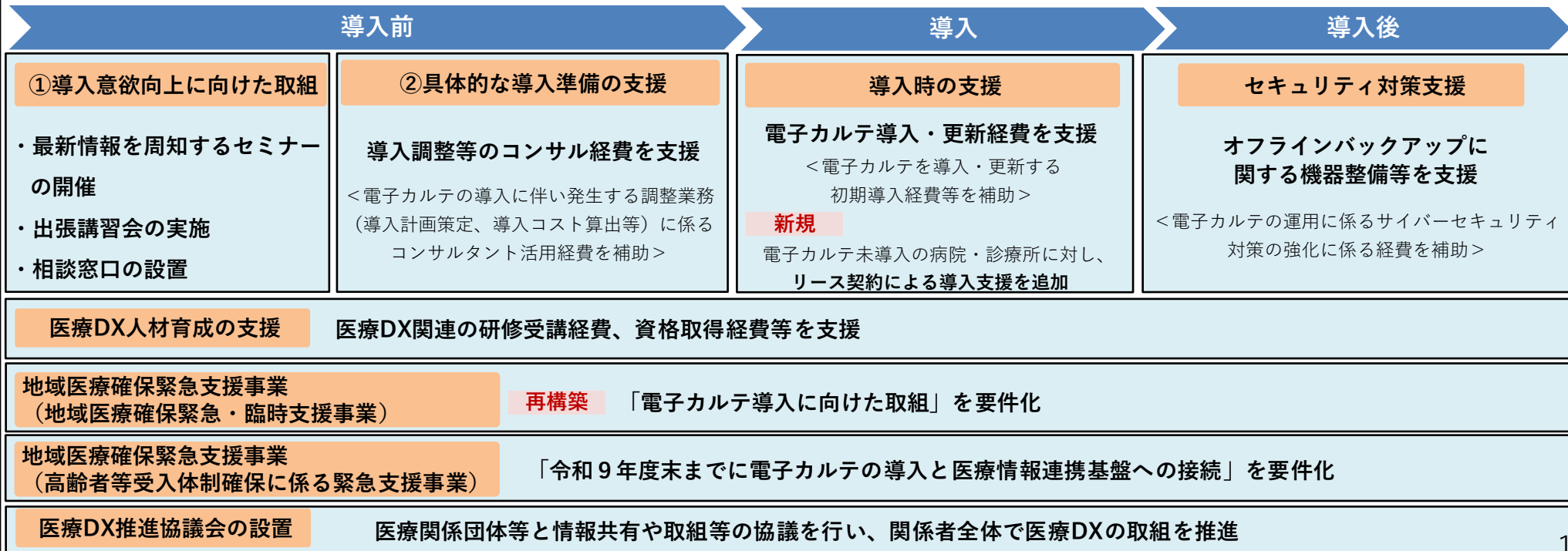
## 1 都における現在の状況

- 高齢者人口が更に増加し医療ニーズの質・量の変化が見込まれる中、都民に安全で質の高い医療を提供するため、デジタル技術を活用した医療情報の共有を推進し、医療機関等の一層の連携や業務効率化を図ることが重要
- 国は「医療DXの推進に関する工程表」で、必要な患者の医療情報を共有するための電子カルテについて、2030年（令和12年）に概ねすべての医療機関での導入を目指すとしている
- 都は、導入経費補助等を実施しているが、令和8年の導入率は病院74.7%、一般診療所59.9%の状況

情報共有のネットワーク構築に向け、都内医療機関に対する支援を拡充し電子カルテ導入を加速化

## 2 医療DX推進に向けた主な取組

- 令和7～9年度の3年間で医療機関への重点支援期間に位置づけ
- 電子カルテの導入率について病院は令和9年度までに、医科診療所は令和12年度までに概ね100%達成を目指す



# 医療DXの推進について

## これまでの主な取組

- デジタル技術による**医療情報の共有**を進めるため、その基盤となる**電子カルテの導入を推進**
- 病院はR9年度までに概ね100%達成を目標に重点支援を実施 → R9年度末92.8%導入見込み

(医療機関への支援内容)

【導入前】相談窓口、コンサル支援等

【導入時】電子カルテ導入等への支援

【導入後】セキュリティ対策支援

- 昨年開始した**医療DX推進協議会**では、国の標準型電子カルテの動向も踏まえた**柔軟なサポート**や**患者も含めた導入メリットの見える化**、**情報連携のあり方**について議論

▶ **協議会の議論を踏まえ、電子カルテ導入促進や情報連携に向けた取組を加速化**



令和8年度の新たな取組 <R8医療DX予算計55.6億円> (R7医療DX予算計38.5億円)

電子カルテ  
導入支援

【医療機関診療情報デジタル推進事業<R8予算:42億円>】

拡充

電子カルテ導入支援の対象にリース契約を追加し、導入や移行の負担を軽減

情報発信

【都民の医療に対する理解と参画推進事業<R8予算:0.7億円>】

拡充

ポータルサイトや啓発動画・冊子等により患者・医療機関のメリットを発信

患者満足度

【患者満足度向上ロールモデル創出事業<R8予算:0.4億円>】

新規

デジタルツールによる患者満足度向上の実証実験を行い、都内医療機関へ成果を普及

医療情報連携

【新たな医療情報連携基盤の構築<R8予算:0.5億円>】

新規

電子カルテを通じた医療情報の共有に関する実態調査や新たな基盤構築の検討を実施

- **デジタル化推進セミナー**は基礎編及び応用編を3回開催予定  
応用編は病院を対象に「急性期病院編」、「療養型病院編」、「精神科病院編」など医療機能・診療科別に開催
- **医療DXに係る出張講習会**は診療所を対象に診療科別に計12回開催

## デジタル化推進セミナー（案）

### 【基礎編（オンデマンド）】

#### ➤ 内容

- ①国が進める医療DXの取組について
- ②医療機関におけるデジタル化の概念と重要性
- ③東京都におけるデジタル化の支援について
- ④サイバーセキュリティ対策について【新規】

#### ➤ 実施時期

令和8年6月頃から令和9年2月末までを想定

#### ➤ 対象

**都内医療機関**の医師・看護師・事務職員等

### 【応用編（対面・オンライン配信）】

#### ➤ 内容

- ・急性期病院編
- ・療養型病院編
- ・精神科病院編

（各医療機能における病院で既に電子カルテを導入・運用している病院の医師による講義を想定）

#### ➤ 対象

**都内病院**の医師・看護師・事務職員等

## 出張講習会（案）

### ➤ 内容

第1部 講師（既に電子カルテを導入・運用している診療所の医師を想定）による講義（※）

第2部 東京都職員による説明

あわせて同一会場内で電子カルテシステムの操作を体験できるブースを設置

（※）

内科、精神科、整形外科、皮膚科からそれぞれ2回  
産婦人科、耳鼻科、眼科、小児科からそれぞれ1回  
の計12回の開催を予定

### ➤ 実施時期

原則として平日夜又は土日午後の実施を予定

### ➤ 対象


**都内診療所**の医師・看護師・事務職員等

## 概要

- 現在、国は標準型電子カルテの開発・改良及び標準仕様の策定に向けて、準備中（令和8年度中目途の完成）
- 国の動きを待って電子カルテの導入ができない医療機関のため、医療機関にとって導入時等に負担が少ないリース契約による導入を支援する

## リース契約による導入の制度（案）

- ◆ 補助対象 電子カルテ未導入の病院及び医科診療所
- ◆ 対象経費 電子カルテシステムの導入に関する経費
- ◆ 基準額 病院：605千円×病床数  
診療所：①605千円×病床数（5床以上の診療所）、②3,000千円（4床以下の診療所）
- ◆ 対象となるリース契約
  - ・ 使用料を含む
  - ・ 厚生労働省標準規格（SS-MIX2ストレージまたはHL7FHIR記述仕様）で出力することが可能であること
  - ・ リース期間は5年以下の契約であること
- ◆ その他
  - ・ リース契約で調達する電子カルテは、リース期間終了後に患者情報を適切に引継ぐことができるものであること。
  - ・ リース期間終了後は国が定めた標準仕様に準拠したクラウド・ネイティブ型システムへの移行を見据えて導入すること。
  - ・ 再リースへの交付は不可とする
  - ・ リース料にかかる補助金の交付は単年度・実績払いとする
  - ・ 医療機関側の自由意思による中途解約可能なリース取引は除く

 国の電子カルテ情報共有サービスへの接続が可能な電子カルテの導入をさらに促進するにはどのような支援策が考えられるか、御意見をいただきたい。

# 令和8年度 サイバーセキュリティ対策の強化について

- 令和7年度はサイバーセキュリティ対策支援の対象を**一般診療所に拡大**したほか、セミナーではサイバーセキュリティをテーマに**実際の事故対応に当たった講師や東京都医師会と連携する警視庁の職員から講義**
- 電子カルテによる医療情報の共有など医療のDX化をさらに加速化するため、**電子カルテを初めて導入する医療機関・導入済の医療機関**双方へわかりやすくサイバーセキュリティ対策の普及啓発を行っていく。

## 令和7年度

### 電子カルテ導入の伴走型支援の一環として 東京都医師会と連携して事業を周知

#### ▶サイバーセキュリティ対策支援事業

- ・オフラインバックアップに関する機器整備等を支援 **(R7一般診療所に拡大)**

#### ▶医療DX人材育成支援

- ・研修受講や資格取得経費を支援 **(R7新規)**

#### ▶デジタル化推進セミナー（応用編）

- ①東京都医師会と警視庁によるサイバーセキュリティ連携の覚書締結にあたって  
(講師：東京都医師会)
- ②ランサムウェア被害にあった医療機関の事例とその対策  
(講師：(一社)ソフトウェア協会)
- ③実際に被害に遭ってしまった場合の対応  
(講師：警視庁サイバーセキュリティ対策本部)

## 令和8年度（案）

### 電子カルテ未導入、導入済医療機関双方に対して 東京都医師会と連携してプッシュ型の周知を強化

#### ▶サイバーセキュリティ対策支援事業【継続】

#### ▶医療DX人材育成支援【継続】

#### ▶デジタル化推進セミナー【継続】

→**基礎編に情報セキュリティの内容を盛り込む**

#### ▶令和8年度事業の案内と併せての周知

→電子カルテの導入前から導入後までの伴走型支援と同時に周知し、**導入前、導入後双方の医療機関へ訴求**

- ・医療機関におけるサイバーセキュリティ対策チェックリスト（厚生労働省）や立入検査の際に使用するチェックリストなどを活用し周知
- ・ネットワークの脆弱性、アカウント・パスワード管理、ウイルス対策など医療機関が確認しなくてはいけない内容をわかりやすく発信

#### ▶医療DX東京なび（仮称）での周知

これから電子カルテを導入する医療機関を含めて、**都や国等の支援事業（セミナー・補助金等）をどのように周知するか、御意見をいただきたい。**

# 医療DX東京ナビ（仮称）の構築について

## 現状・課題

- 医療機関及び患者のメリットが、広く正しく伝わっていないのが現状
- 医療機関と患者双方のメリット、電子カルテの導入状況をはじめとした医療DX全体の見える化、各種支援の制度等の情報を分かりやすく発信をして、入手できることが必要

**都民・医療機関向けに医療DXのメリット等をまとめたサイト「医療DX東京ナビ（仮称）」を構築する**

## 掲載情報（案）

### 【全体向け】

- ✓ 医療DXとは（全国医療情報プラットフォームの概要等）
- ✓ 医療DXのメリット（医療機関・都民）

### 【都民向け】

- ✓ 電子カルテ導入状況等のダッシュボード
- ✓ 医療機関における医療DXの取組状況の掲載  
⇒ **地図上に落として検索可能**に。（基本情報はナビと連携）
- ✓ 事例紹介（電子カルテ情報の連携・PMH接続等によるメリット等）  
例：検査の重複、飲み合わせの悪い投薬、重複投薬の減
- ✓ 暮らしの中の医療情報ナビ\_医療DX編等（マンガ）を掲載
- ✓ PMH接続医療機関、区市町村の掲載

### 【医療機関向け】

- ✓ 国・都の各施策（補助金等の各種支援事業）
- ✓ サイバーセキュリティ対策について
- ✓ 事例集（電子カルテ導入・PMH接続事例、AI活用事例等）など

## サイトイメージ（案）

### 【トップページ】



### 【医療機関向けページ】

電子カルテ支援メニューの紹介（目的別）



## スケジュール（案）

R8年4月～8月	総合評価方式により委託事業者決定
9月～2月	サイト構築、テスト作業
R9年3月	サイト運用開始

この他、**掲載すべき情報**はどのようなものがあるか。また医療DXの取組をどのように見える化するか。**サイトへの誘導策**はどのようなものがあるか。御意見をいただきたい。

# 医療DX普及啓発動画の作成及び広告掲載について

## 現状・課題

- 医療機関及び患者のメリットが、広く正しく伝わっていないのが現状
- 医療機関と患者双方のメリット、電子カルテの導入状況をはじめとした医療DX全体の見える化、各種支援の制度等の情報を分かりやすく発信をして、入手できることが必要
- 医療DXに興味がない層にも届く普及啓発方法をとることが必要

**普及啓発用の動画を作成し、SNSで広告掲載する。**

## コンセプト

- 幅広い世代がターゲットであることに鑑み、**複数の切り口によるシリーズ化**
- 概要編では、「**医療DXによる社会の変化**」に焦点を当て、「**未来の東京の医療**」を描く
- 他編は「**個人の生活シーン**」に焦点を当てることで、視聴者に「**自分ごと化**」してもらい「**共感**」を引き出す
- 適宜実写とアニメ（イラスト）を組み合わせることで、**分かりやすさ、親しみやすさ、リアリティ、安心感**等を演出

## 作成動画（案）

シリーズ名(案)	ターゲット層(案)	伝える内容・想定メリット・訴求ポイント 等(案)
医療DXの概要編	全年齢	・医療DXの目的・定義、全体像 ・医療DXで社会全体がどのように変わるのか 等
若年層編	主に10代後半～30代	・生活の中での活用シーン及びメリットの紹介（自宅スマホで問診、オンライン診療で受診 等） ・「面倒くさい」ではなく、「スマートさ」・「手軽さ」を訴求
子育て世代編	主に30代～50代	・生活の中での活用シーン及びメリットの紹介（スマホで診療予約、子連れ受診時の待ち時間短縮 等） ・「家族の健康・安心」・「家事育児の効率化」を訴求
高齢者編	主に60代以上	・生活の中での活用シーン及びメリットの紹介（医療従事者間での医療情報の共有、家族との医療情報の共有 等） ・「難しそう」ではなく、「便利さ」・「安心感」を訴求

## スケジュール（案）

R8年8月  
委託事業者決定  
8月～R9年1月  
動画作成  
2月～  
SNS広告掲載

取り上げる具体的シーン、ストーリー、構成等はあるようなものがあるか。医療機関や患者に伝わりやすく効果的なものにするため、SNSなど各種媒体をどのように活用するか、御意見をいただきたい。

# 知って安心 暮らしの中の医療情報ナビ（医療DX編）の作成について

- 東京都では、都民の医療に関する理解促進のため、「知って安心 暮らしの中の医療情報ナビ」を作成
- 「大人編」「子供の発熱編」「高齢者の骨折編（マンガ）」の3種類のテキストにより各シーンで関連する医療情報をわかりやすく解説するとともに、普及啓発用リーフレットを作成
- テキストは区市町村や保健所、地区医師会、医療機関等に配布するほか、保健医療局のHPに掲載
- 電子カルテを始めとした**医療DXのメリット**など都民のさらなる理解促進のため、医療情報ナビに「**医療DX編**」を追加する。（令和8年度作成予定）

## 現状



## 作成方針（案）

- ☞ 都民にわかりやすく、医療DXに親しみをもちてもらうため、**マンガ版で作成**する。
- ☞ **医療DXのメリットがわかりやすいストーリー構成**（例：働きながら治療を行いたい、待ち時間が長いのが心配、予約の変更が大変、お見舞いを希望する家族が遠方に在住、退院後のかかりつけ医との情報共有、術後のオンライン診療 など）
- ☞ 用語集、参考資料は巻末にまとめて添付
- ☞ スマートフォン版ではマンガをスライドで閲覧できるようにするなど、都民がより親しみやすい形で今後の普及啓発に積極的に活用

## 検討体制及び作成時期（案）

- ☞ 東京都医療DX推進協議会のほか、医療情報に関する理解促進委員会など関係する協議会、委員会の意見を聞きながら検討し、令和8年度中に作成予定

取り上げる具体的なシーン、ストーリー、構成等はどうのようなものが良いか。医療機関や患者に伝わりやすく効果的なものにするため、各種媒体をどのように活用するか、御意見をいただきたい。

# 新たな医療情報連携基盤の構築について

- 国が導入を進める電子カルテ情報共有サービスの3文書6情報に加えて、**検査画像など医療連携の推進や患者の満足度向上につながる医療情報を、電子カルテを導入したすべての医療機関間で連携・共有**
- **患者自身も連携された検査画像などの医療情報を閲覧できるとともに、医療機関への診療予約や患者へのプッシュ通知機能等のサービスを提供できる環境を整備し、患者や家族の利便性を向上**

## —目指す姿—

### 全国医療情報プラットフォーム(国)

#### 医療情報基盤

- 電子カルテ情報共有サービス (3文書6情報)
- オンライン資格確認等システム
- 電子処方箋管理サービス

#### マイナポータル



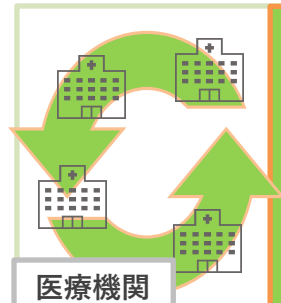
患者情報

#### 介護情報基盤

#### 行政・自治体情報基盤

\* 3文書：健康診断結果報告書、診療情報提供書、退院時サマリー  
6情報：傷病名、感染症情報(一部のみ)、薬剤禁忌情報、アレルギー情報、検査情報(一部のみ)、処方情報

### 新たな医療情報連携基盤(都)



- すべての医療機関間で医療情報の連携・共有
- 検査画像など、充実した連携項目で医療サービスの質を向上

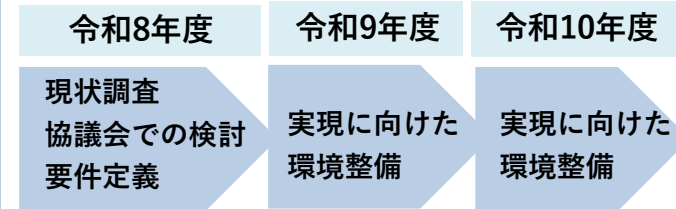


実現に向けた現状調査、要件定義



- 過去の自分の医療情報(検査画像等)の閲覧が可能
- 医療機関へのweb予約やプッシュ機能により利便性向上

## 3か年のスケジュール



現在、電子カルテを基盤として、国が医療情報共有のための電子カルテ情報共有サービスの導入準備を進めているが、電子カルテ間で情報共有できる情報は3文書6情報に限られる。医療の質と患者サービス向上には、検査画像など必要となる医療情報を追加して連携していくことが必要である。

令和8年度は具体的な仕組みづくりに向け現状を調査するとともに、必要な機能を整理・検討のうえ要件定義に着手する。

令和9年度以降、さらなる医療連携の推進や、患者自身の利便性向上にもつながる新たな医療情報連携基盤を構築し、順次運用していく。

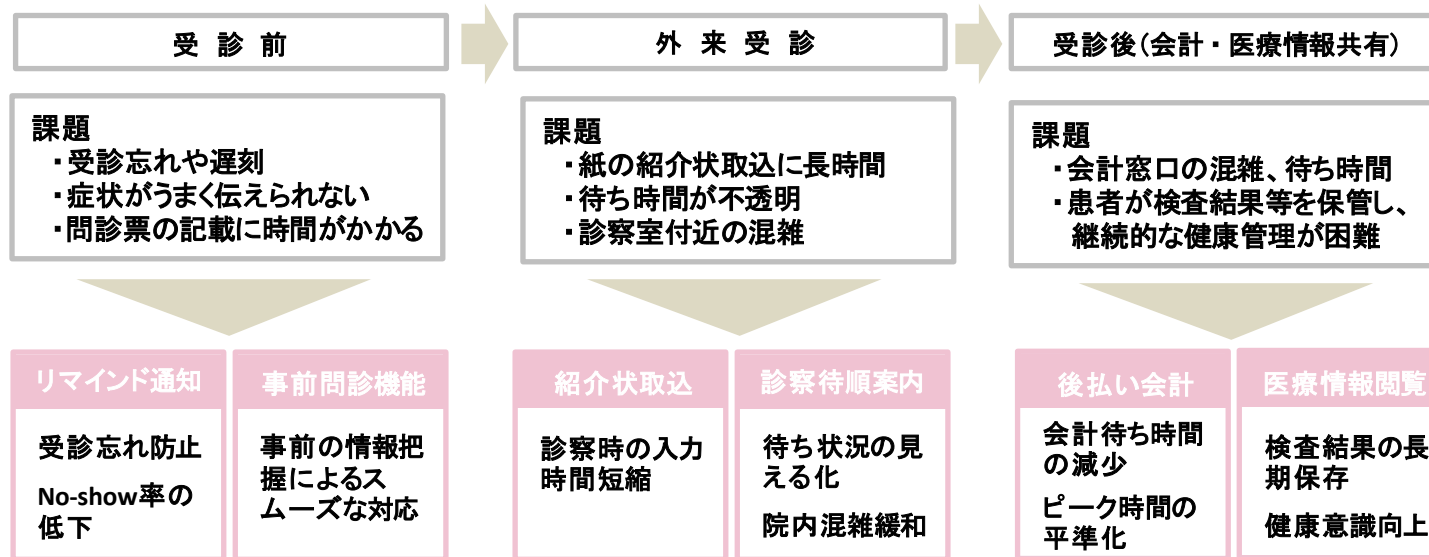
## 事業目的

- 患者満足度向上に寄与するデジタルツールを用いて最適化するロールモデルを創出し、都内医療機関における患者満足度向上の取組支援策につなげ、患者の手取り時間を増やす。

## 事業概要

- 受診前から受診後まで一連のデジタルツールを都立病院で先行して導入し、導入前後の効果を検証
- 検証結果の分析を踏まえ、デジタルツールや導入手順などのガイドラインを作成。都内医療機関への展開を促進し、患者の待ち時間の短縮による手取り時間の増加など、患者満足度を向上

(イメージ)



## スケジュール

- 病院での実証  
令和8・9年度
- 実証結果を踏まえた  
導入ガイドライン作成  
令和9年度